

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成28年度第2回西脇市上下水道事業審議会
開催日時	平成28年9月30日（金） 午後7時00分～8時30分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター3階ホール
出席委員の氏名又は人数	長峯委員、齋藤委員、岡本委員、大西委員、來住委員、木下委員、村上委員、内橋委員
欠席委員の氏名又は人数	
出席職員の職・氏名又は人数	片山市長、田中部長、岡本課長、内橋課長補佐、伊藤課長補佐、衣笠課長補佐、吉山主査
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	1人
議題又は協議事項	<p>1 諮問（市長から審議会会長へ）</p> <p>(1) 水道事業の経営戦略について</p> <p>(2) 下水道事業の経営戦略について</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 会議録署名委員の指名</p> <p>(2) 審議会の開催計画について</p> <p>(3) 経営の現状と今後の見込みについて</p> <p>(4) 経営戦略の策定について</p>
会議の記録（概要）	
発言者	別紙のとおり
問合せ先	西脇市上下水道部管理課 TEL 0795-22-3111 FAX 0795-22-8573

会議の記録（概要）	
発言者	
会長	<p>○開会</p> <p>○会議録署名委員の指名</p> <p>西脇市上下水道事業審議会運営規則第4条第3項の規定により、來住委員と齋藤委員を指名します。</p> <p>○審議会の開催計画について事務局から説明</p> <p>○水道事業の現状と今後の見込み並びに経営戦略の策定について事務局から説明</p>
委員	<p>1点目は、国から経営戦略を策定しなさいと通達を受けたものの、市職員では策定が困難なので、業者に委託していると思いますが、その業者を選定された経緯を教えてください。</p> <p>2点目は、大木浄水場から市役所の方へ上水が供給されていると説明がありましたが、市役所の移転が想定されていますか。また、水害等の防災設備も考慮されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>1点目につきましては、本市上下水道事業の財務会計システムは、株式会社フューチャーイン様の会計ソフトを使用しており、本市の経営状況を把握していること、それから、今回の経営戦略策定業務を通じて、財政計画をシステム化しようと考えていること、経営戦略策定の補助として新日本有限責任監査法人様のバックアップ体制が整っていることから、株式会社フューチャーイン様との随意契約となりました。</p> <p>2点目につきましては、大木浄水場から市役所を含む配水区域内に水が送られるようになると説明させていただいたもので、市役所の移転の有無が整備計画に左右されることはありません。</p> <p>また、大木浄水場は、水害に対応できる高さに建設されています。杉原川の堤防の高さに合わせて盛り土し、水害等の災害に備えています。</p>

委員	<p>上水は、これから設備更新に費用がかかるから、その対応が必要とのことですが、普通の会社であれば、減価償却費でその費用を賄うのですが、どのように現金を蓄えているのですか。</p>
事務局	<p>上水、下水とも減価償却費を計上しています。</p>
会長	<p>上水は、料金収入や減価償却によって平成 27 年度決算では、8 億円の現金が蓄えられていますが、今回の計画に沿って年間 4.7 億円の事業をすれば、1～2 年しか持たない結果となっています。どのように事業を進めていくかを経営戦略として計画していかなければならないということです。</p>
委員	<p>法定耐用年数更新のための事業費、年間 8 億円と実使用年数更新のための事業費、年間 4.7 億円の違いを教えてください。</p>
事務局	<p>年間 8 億円という事業費は、法律で定められた 40 年で管路を更新した場合の金額で、当然そのような計画では経営が成り立たないので、80 年間は更新しなくても大丈夫と想定して、年間 4.7 億円の事業費を算出しています。</p> <p>しかし、更新事業を 80 年間に先延ばししても、経営が困難なので、今回、委員皆様のご意見を伺って、料金の値上げをせずに 10～20 年の事業計画を立てたいと思います。</p>
委員	<p>西脇市は、年間 4.7 億円で事業費を抑えて行おうということですね。</p>
事務局	<p>いいえ。年間 4.7 億円の事業費では難しいので、もう少し抑制できるかどうかを委員の皆様と考えていきたいと思っています。</p> <p>今のところ、料金収入のみで事業を行ってきているので、資金の借り入れも含めて考えていただきたいと思っています。</p>
委員	<p>減価償却をしていると聞きましたが、減価償却して</p>

	<p>いれば、法定の年数が経過すれば、更新費用が積み立てられていると考えるのが、世間一般の常識ではないのですか。現金が減っていくのが理解できないのですが。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃるとおりですが、西脇市では現在、先行して設備投資を行っており、管路の耐震化率は、県下で3番目に高い数値となっています。他の自治体では、今から慌てて行うところも多いですが、西脇市は前倒しして更新事業を行っている状況です。</p>
事務局	<p>また、入れ替える管の素材が全く違いまして、昔は安価な塩化ビニール管でしたが、現在はダクタイル鋳鉄管という鋳物を使用しており、更新費用に差が生じています。浄水場にしても、昔は塩素注入のみで水を供給していましたが、現在は、紫外線処理をした水を送るなど、更新費用が高額となっております。このようなことから、減価償却による資金の積立てでは足りていないというのが、現状でございます。</p>
委員	<p>現状の説明がありましたが、過去の反省についての説明がありません。これまで、企業の水需要があったからシミュレーションをして、県水受水施設、上戸田、大木浄水場と整備してきたが、人口が減少している、企業が撤退しているという現状を盛り込んだ整備計画となっているのか。水需要などの前提条件を見直さずに、無理な投資をしてきたのではありませんか。</p>
会長	<p>最初は、大口需要家の水需要予測も踏まえた計画でしたが、見直しを重ねて、今の整備計画になっております。大口需要家がいなくなるので、1つ浄水場の建設を取りやめよう、それで料金の値上げをしなくても良くなった、といった話を前回の審議会でしました。市の水需要予測が変更されるたびに、整備計画も見直してきました。</p>
事務局	<p>最近5年ほどは、縮小を重ねてスリムな整備計画としております。県水は自己水源と違って、湧水などの</p>

	<p>影響を受けない安定した水源と考えております。</p> <p>県水の権利金、1日当たり 8,000 m<sup>3</sup>分の費用は固定されているので、経費に影響はありませんが、受水量をコントロールすることにより、経費の節減を考えています。現在は、1日当たり 3,150 m<sup>3</sup>を受水していますが、将来的には 5,600 m<sup>3</sup>を受水しようと計画していますが、もう少し減少できないか検討しています。</p> <p>西脇地区では、1日当たり 16,600 m<sup>3</sup>の給水計画がありました。浄水場や配水池の建設を取り止め、13,050 m<sup>3</sup>まで縮小しました。事業費では 7.9 億円の削減が見込めました。</p>
<p>会長</p>	<p>過去の反省を踏まえて、事業費を縮小していくことは可能だと思いますが、一方、企業誘致する場合は、水を用意していなければ来てくれません。もし、企業誘致が失敗すると、住民にその負担が跳ね返ってくるわけですから、そのあたりは、政治的判断によることとなり、難しい判断となります。</p> <p>人口減少を踏まえ、企業誘致も視野に入れた経営となると、自前で浄水場を造るよりも、質が保証されている県水の比重が高くなるのも安全なのかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>県水、上戸田浄水場、大木浄水場とありますが、西脇市は、そこから水を買っているのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>上戸田浄水場と大木浄水場は、井戸から汲み上げて作っているので買っていませんが、県水は飲む水を 1 m<sup>3</sup>当たり何円で買っています。</p>
<p>委員</p>	<p>加西市も買っていると思うのですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>加西市は、県水と市川町から水を買っています。</p>
<p>委員</p>	<p>県が水を売っているのであれば、権利のある分全部買えばいいのではないですか。</p>
<p>会長</p>	<p>県は県で、借金をして浄水場を建設し、その水を売っていて、そんなに安くはありません。</p>

	<p>自前で井戸を掘り浄水して、自前で更新していくのか、料金は高いですが、質の保証された県水を買うのかシミュレーションを重ねて、今の状況を選択してきました。</p> <p>○下水道事業の現状と今後の見込みについて事務局から説明</p>
事務局	<p>下水道事業の場合、前回の審議会で、法定耐用年数で更新した場合の事業費が年間 16 億円となり、これを見直して、平成 36 年度までの施設統廃合計画を承認いただいて、現在、統廃合事業に取り組んでいます。今回は、もう少し経費を見直して、経営戦略に反映させたいと考えております。</p>
委員	<p>近隣の小野市や三木市と比較すると、営業収支比率や流動比率が悪く見えるのは、なぜですか。</p>
事務局	<p>西脇市は、下水道処理流域の最上流部で、他市に比べると投資額の大きいことが、その要因と思われます。流域下水処理場を持つ小野市が、施設整備の投資額が一番低くなっています。</p> <p>小野市は、下水処理場へ繋がる幹線が通っており、汚水を流す接続点が 12 箇所あるのに対し、西脇市は、平野町 1 箇所のみとなります。西脇市内の 6 割強の汚水を 1 箇所に集めてきていることから、事業費も高額となり、小野市と比べると 100 億円も費用が多くかかっています。</p> <p>多くの負債を抱え、返済する額も高額なので、他市と比較すると、流動比率などの指標が低くなっています。</p>
会長	<p>水道事業に戻りますが、法定耐用年数が 40 年、延長しても 50 年とありますが、今回は一気に 80 年まで延ばしていますが、法定耐用年数って一体どういうものなのでしょうか。</p>
事務局	<p>昔から管の材質に関係なく、法定耐用年数は 40 年となっていますが、現在、メーカー側は、100 年は大丈夫</p>

<p>委員</p>	<p>だと推奨しています。そのような管を西脇市では、平成 14 年から採用しています。</p> <p>現在の西脇市では、耐震化の施されたメーカーの推奨する水道管の割合が高くなってきたため、実使用年数を 80 年と設定しました。</p> <p>40 年前、50 年前のものではなくて、阪神淡路大震災以降の耐震化の施された水道管について、今後は、80 年から 100 年は使用できるだろうと考えているのですね。</p> <p>40 年から 50 年経過した水道管について、更新計画を立てていくということですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのとおりです。例えば、緑風台地区は、布設してから 40 年経過しているのに加え、漏水事故も多発しておりました。そのような工事をしなくてはならないところを、重点的に選択して更新計画に入れていこうと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>水道事業の資金残高ですが、平成 26 年度で 12 億円ほどあるのが、平成 30 年度では無くなるというのが、どうしても納得できないのですが。費用を多めに見込んでいるのではないですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>工事費については、全国で使用されている基準単価で試算していますので、若干多めに見積もっています。実際に決算しますと、予算額の 85% が工事費となります。</p> <p>説明にもありましたが、現在は、借金をせずに自己資金で工事を進めるという方針で計画を立てています。結果として、毎年、現金が減少していくというグラフになっています。</p>
<p>委員</p>	<p>資本的収入が平成 29 年度まで減少していますが、どのような収入ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>工事をするための国庫補助金や市からの負担金などです。</p>

委員	<p>資本的支出が同じように平成 29 年度まで減少して、それから、毎年 5 億円の支出となっていますが。</p>
事務局	<p>大木浄水場が完成すると、それ以降は、新たな施設を造るということは考えておりません。今ある水道管を更新していくことが、主な事業となりますので、毎年 5 億円の支出となっています。</p>
事務局	<p>次回の審議会では、更新工事の選択と集中を考慮して、工事費を算出した計画を提案したいと思います。</p> <p>極端な話ですが、更新工事をしないという選択肢もあります。しかし、そうするとリスクが発生します。我々は、水道事業を運営しておりますので、水が送れないというリスクを回避しなければなりません。</p> <p>できるだけリスクを減少させるという方策を言葉で表すことが、今回の経営戦略の目的であります。</p>
委員	<p>下水道マンホールの蓋が、全国的に注目されており、カードなどを作成して P R する自治体が多いですが、西脇市はカードを作成していますか。</p>
事務局	<p>問合せはありますが、作成しておりません。</p> <p>○その他として、次回の審議会の開催日について調整</p> <p>○閉会</p>